

岩戸沢砂防えん堤完成式 あいさつ （全文）

例年になく早さで訪れた今年の春ですが、桜や山々の緑とともに岩戸沢砂防えん堤も無事完成の運びとなりました。本日、梅雨の合間をぬって「五月晴れ」のもと、完成式を挙げることは、町にとっても地域にとっても嬉しい限りであります。コロナ対策の観点から規模を縮小しての開催となりましたが、私達の喜びは決して小さなものではありません。先日の大雨でも五月としては記録的な雨量だったにも拘らず、見事に地域防災の砦としての役割を早速に果たしてくれています。これも計画から施行まで長期間に渡ってご尽力頂いた長野県建設部、木曾建設事務所はじめ、地権者や地域の皆さん、施工業者のお蔭と深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

この岩戸沢がある沼田地区は南木曾中学校や蘇南高校など町の文教地区となっておりますが、集落周辺の木曾川右岸の地質は巨岩がゴロゴロしている何かにつけ防災工事が欠かせない地域です。昭和二十八年には岩戸沢の隣に位置する伊勢小屋沢で蛇抜けが発生して、三名の尊い生命が犠牲となりました。その慰霊碑として建立された「悲しめる乙女の像」が座る巨石には、「白い雨が降るとぬける 尾先谷口宮の前 雨に風が加わると危ない 長雨後 谷の水が急に止まったら抜ける 蛇抜けの水は黒い 蛇抜けの前にはききな臭い臭いがする」と俚諺(りげん)が刻まれ、今もって町民の防災の礎として私達を見守ってくれています。また岩戸沢はその名が示す通り、神様が住んだとも言われる大きな岩で出来た洞があったり、洞窟に円空が籠って彫ったとされる仏像が町内には残されています。

このようなことから、ここに住む人達が砂防事業に期待する役割には大きなものがあつた訳ですが、今回の工事では急峻で厳しい条件の中でも百mを超える立派なえん堤を築いて頂いたうえ、地区の大切な白山神社をも移転して残して頂きました。地元にとってはこの上ない感激をもって竣工を迎える事ができ、岩戸伝説ではないですが、まさしく大きな岩の向こうに光を見るような気持ちだと思います。

これからも安心して暮らせる生活の場となる事が出来た事への喜びと感謝の気持ちを、この場をお借りして伝えさせ頂くとともに、併せて一日も早くコロナ禍が収束することを願いながら、町を代表してお礼の言葉に替えさせていただきます。

長い間に渡って、また本日は誠にありがとうございました。

(令和3年5月29日 町社会体育館)